



平家物語

物語と史蹟をたずねて

土橋治重著

成美堂出版

平家物語

と史蹟をたずねて

土橋治重著

平家物語◆物語と史蹟をたずねて

著者◆土橋治重

定価◆七〇〇円

初版発行◆昭和四七年二月一日

二三刷発行◆昭和五一年三月一〇日

発行者◆深見兵吉

本文印刷◆福音印刷株式会社

カバー印刷◆名古美術印刷株式会社

発行所◆成美堂出版株式会社

東京都文京区関口一丁目三二ノ四

電話◆東京二〇二一〇六九七

振替◆東京四四六六

郵便番号◆一一二

落丁・乱丁本はお取り替えます

目

次

平家物語年表	7
物語に出てくるおもな人物	13
祇園精舎	27
殿上の闇討ち	29
三十三間堂	34
六波羅蜜寺	34
六波羅付近	34
五条大橋	34
妓王姉妹と仏御前	35
西八条付近	42
祇園女御塚	42
嵯峨野	42
祇王寺	42
小督局の墓	43
嵐山・渡月橋	43
鹿ガ谷事件	45
俊寛山莊地	50
鹿ガ谷付記	50
西光と成親	51
小松内大臣重盛	55
重盛屋敷跡	61
平重盛余話	61
鬼界ガ島物語	62
鬼界ガ島	67
優しき有王	68
高野山	72
法華寺	72

重盛逝去	73
熊野神社本宮	78
源氏揃え	80
鳥羽殿	84
橋合戦	85
三井寺	90
宇治橋	90
宇治川	90
頼政と以仁王の最期	91
平等院	96
頼朝挙兵	98
蛭ガ小島	105
衣笠城跡	105
富士川	105
清盛狂い死に	106
東大寺大仏殿	111
興福寺	111
俱利伽羅落とし	112
旗上げ八幡	117
俱利伽羅峠	117
白髪を染めた実盛	118
中原兼遠の館跡とその墓	123
篠原古戦場跡	123
実盛首洗い池	123
実盛塚	123

平家一門の都落ち……………124

桂川129 仁和寺129

木曾の田舎者……………130

宇治川の先陣……………134

宇治川先陣争いの地140 宇治川先陣余話140

栗津の松原……………142

今井兼平の墓148 義仲寺148

鶴越の坂落とし……………149

鶴越154 一の谷古戦場154

鞍馬寺154

敗軍のあわれ……………155

重衡生捕り160

直実と敦盛……………161

敦盛塚など165 首のひき回し165

小宰相哀話……………166

一谷嫩軍記170

維盛入水……………171

横笛と時頼176

逆櫓……………177

屋島の合戦	181
屋島	187
義経の弓流し	187
扇の的	188
うそ八百	191
鶏合わせ壇浦合戦	192
壇浦	199
彦島	199
赤間神宮	200
平家の最期	201
壇浦合戦こぼれ話	206
肉親無情	207
義経腰越状	211
白拍子・静	212
鶴岡八幡宮	216
安宅の関跡	216
衣川館跡	216
建礼門院出家	218
長楽寺	222
大原の里	222
寂光院	222

■装丁 NDC

■写真 斎藤政秋

斎藤吉子

西村元資

編集部

平家物語年表

年号	西曆	月日	事 項
天承元	一一三一	11・23	平忠盛、殿上の闇打ちをしりぞけて、評判になる。
保元元	一一五六	7・11	保元の乱。
平治元	一一五九	12・9	平治の乱。
永暦元	一一六〇	3・11	平治の乱で、源頼朝、平清盛によって伊豆蛭ガ島に流される。十三歳。
仁安二	一一六七	2・11	清盛、従一位太政大臣となる。
仁安三	一一六八	11・11	清盛、病のため入道し、浄海と法名をつける。のち病なおる。
嘉応二	一一七〇	10・21	清盛、摂政藤原基成の侍臣平資盛に報復の乱暴をさせる。
承安元	一一七一	12・14	清盛の娘の徳子(のちの建礼門院)高倉天皇の妃となる。十六歳。
治承元	一一七七	5・29	源行綱、鹿ガ谷の平家覆滅の陰謀を清盛に密告する。
		6・1	清盛は、陰謀の主謀者・藤原成親、その子の成経、西光法師らを抑える。
		6・22	清盛は、陰謀に加担した成経、平康頼、俊寛僧都を鬼界ガ島へ流す。
治承二	一一七八	8・19	清盛、備前に流した藤原成親を殺害する。
		9・20	清盛の娘の中宮徳子懷妊の大赦によって、成経、康頼許される。
		11・12	安徳天皇誕生。
治承三	一一七九	7・28	俊寛僧都、鬼界ガ島で病死。三十七歳。
		8・1	清盛の長男重盛出家。法名は浄蓮。
			重盛死去。四十三歳。

閏 2 4	2 27	1 14	12 2	10 23	9 20	9 7	8 23	8 17	6 24	5 23	5 15	4 28	2 11	11 16
-------------	---------	---------	---------	----------	---------	--------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	----------

清盛、反平家の関白以下公卿、殿上人四十三人の官職をやめさせる。
安徳天皇、皇位につく。

高倉宮以仁王の、源頼政のすすめによって発した、平家追討の令旨が、源行家の手で諸国の源氏にとどけられはじめ。

以仁王、平家の討手をのがれて三井寺に入る。

源頼政方と平家方で宇治川をはさんで橋合戦を行ない、頼政敗れて自刃する。以仁王は流れ矢にあたって死す。

頼朝、以仁王の令旨によって各地の源氏および源氏ゆかりの大名豪族に連絡をとる。

頼朝、伊豆に兵を挙げ、平兼隆を破る。

頼朝、石橋山で大庭景親に敗れて逃走。走水より上総に渡る。

木曾義仲、兵を挙げて頼朝に応ずる。

平維盛を総大将とする頼朝追討軍京都を発する。

源平両軍の富士川の対陣。頼朝は関東を従えてその軍勢二十万。平家は七万。夜半平家軍は水鳥の羽音に驚いて敗走する。

清盛、都を京にもどす。

高倉上皇、六波羅で逝去。

清盛の後を継いだ重盛の弟、宗盛が総大将となり、頼朝追討に出発しようとしたとき、清盛熱病にかかる。

清盛死す。六十四歳。

元暦元 (寿永三)		寿永二		寿永元 (養和二)	
一一八四		一一八三		一一八二	
1	8	3	9	5	11
・	・		・	・	・
8	16	月	9	27	24
8	6				14
28	25				7
7	7				・
・	・				6
24	1				16
6	12				
5	5				
・	・				
11	17				
4					

信濃を従えた木曾義仲、越後の大名城長茂^{ながもち}の軍を破る。

養和と改元する。

中宮、平徳子、建礼門院の称号を許される。

寿永と改元する。

義仲、城長茂と信濃筑摩川に戦い、徹底的にこれを破り、勢力を安定させる。

頼朝、義仲と不和になり信濃に兵を發したが、義仲が子義高を人質としたので兵をひく。

維盛が義仲追討遠征軍の総大将となり、京都を發する。

義仲は砺波山で迎え討ち、平家軍を倶利伽羅谷に転落させ大勝をはくす。

志保山でも義仲大勝。平知度戦死。

斎藤実盛討ち死に。

平家、天皇、法皇とともに都を落ちようとするが、後白河法皇はのがれて延暦寺に入る。

宗盛以下の平家一門、安德天皇と建礼門院をとまって都を落ちる。

義仲は勢^(瀬)多、源行家は宇治から京都に入る。

法皇、宗盛以下一門の官位を除く。

義仲は伊予守、行家は備前守となる。

義仲、征夷大將軍となる。

1 . 20

1 月

2 . 7

2 . 13

3 . 28

4 . 16

9 . 12

9 . 27

1 . 10

2 . 16

2 . 18

2 . 21

義仲、源範頼、義経の軍勢を宇治、瀬田に迎え討つ。宇治川の先陣争いが行なわれ、木曾勢は敗れる。範頼、義経京都に入る。義仲は粟津で今井兼平とともに討ち死にする。

この月のはじめ九州から引き返してきた平家方は福原に抛り、一の谷に城砦をきずく。

一の谷の合戦。平家方は義経らに敗れ、忠度、通盛、知章をはじめ十余人の中心武将を失う。宗盛、一族および兵を収容して四国の屋島にのがれる。

忠度ら討ち死にしたものの首を京都にさらす。

維盛、屋島の城を抜け出し、出家して、那智の沖に投身する。

元暦と改元する。

平家追討のため範頼京都を発して山陽道に向かう。

義経、左衛門少尉、検非違使となる。

この年改元。

義経、平家追討の兵をひきいて京都を発つ。

義経五十騎で渡辺の港を出て阿波に向かう。

義経、屋島で平家軍を破り海上に追う。佐藤嗣信が戦死し、那須与一が扇の的を射る。

平家一門、西海に走る。

文治五	一一八九	3 ・ 10	10 ・ 29
文治三	一一八七	4 月	
文治二	一一八六	4 ・ 4	12 ・ 17
		11 ・ 6	10 ・ 25
		6 ・ 5	5 ・ 7
		5 ・ 1	4 ・ 24
			3 ・ 24

長門壇浦で源平最後の海戦が行なわれる。平家方が敗れ、知盛以下一門ごとく戦死し、二位の尼が安徳天皇を抱いて入水する。総大将宗盛以下名ある男女あわせて八十一人が捕虜となる。

義経、京都に凱旋。
建礼門院出家。

義経、宗盛以下男のみの捕虜をとまって鎌倉におもむく。
鎌倉入口の腰越で、鎌倉入りを頼朝にとめられた義経は、「腰越状」といわれる釈明状を書くが、頼朝はなっとくしない。

頼朝、義経追討の大軍を、鎌倉から発する。

義経、九州へ落ちのびるため、大物浦から船出するが、暴風雨で転覆。家人のほとんどを失う。

静、吉野で捕わる。

静、鶴岡八幡宮の舞楽殿で舞う。

後白河法皇、建礼門院を大原の庵室を訪ねる。

この年義経、奥州平泉の藤原秀衡のもとにのがれる。

秀衡死す。

義経、秀衡の子・泰衡に襲われて自殺する。武蔵坊弁慶は討ち死に。

おもな人物

有王（ありおう・生没年不明）

俊寛僧都の侍童。鹿ガ谷事件で鬼界ガ島へ流された主人の俊寛をたずねて、はるばる鬼界ガ島まで渡って行った。島で俊寛は間もなく死亡したので、有王は骨をもって帰京し、十二歳になる主人の娘に無言の対面をさせた。やがて、高野山の奥の院に骨をおさめ、蓮華谷で法師になり、全国を行脚して主人の後世を弔った。

今井兼平（いまいのかねひら・一一五一—一八四）

木曾義仲の乳母子で、四天王の一人。中原兼遠の二男で、樋口兼光の弟。巴御前の兄。義仲に従い、各地の合戦で、参謀として役割を果たした。元暦元年正月二十日、戦さに敗れて近江の粟津まできたときは義仲と主従二騎になり、義仲が戦死したのを見て、自殺した。

大庭景親（おおばのかげちか・？—一一八〇）

平氏の系統をひき、大庭景能の弟。相模国の住人で、源義朝に従ったのち、平家に属した。以仁王の挙兵後、頼朝を監視するために京都から相模にもどった。頼朝が兵を挙げたとき、弟の侯景景久らとともに攻めて、大いに破った。頼朝が勢いを盛にかえし、富士川で平家方を敗走させると、平家に見きりをつけて降参した。しかし、頼朝に許されず、鎌倉の西郊片瀬川のはとり

で斬られた。

梶原景季（かじわらのかげすえ・一一六二—一二〇〇）

景時の嫡男。宇治川の合戦で、佐々木高綱と先陣を争ったが、高綱のほうが頭がよく、さきを越された。頼朝から深く信任されて近侍し、左衛門尉にも任じられた。頼朝の死後、父と進退とともにし、正治二年上京の途中、駿河国狐崎で矢部平次によって討ちとられた。

梶原景時（かじわらのかげとき・？—一二〇〇）

平三といった。治承四年、頼朝が兵を挙げたとき、大庭景親とともに攻めて破ったが、のち頼朝に協力し、信任された。平家追討の際、義経と逆櫓の争いをしたのは有名。義経を頼朝にざんげんして失脚させ、また畠山重忠をもざんげんした。頼朝の死後、北条時政らと幕政に参加し権勢をふるった。不実の行為に諸將の信を失って所領一宮に退いていたが、正治二年京都の勢力と結ぼうとして西上の途中、駿河国で幕府御家人にあやしまれ、狐崎で矢部小次郎に討たれた。

妓王（ぎおう・生没年不明）

京都の白拍子で平清盛の寵妓。清盛から毎月米百石と銭百貫を与えられていたが、仏御前という白拍子があらわれて、清盛から追放された。妹の妓女と母親と三